

解決方法について

質問 18 部落問題解決のためどのようなことを行ったらよいか、あなたの考えに近いものを選んでください。(2つ以内)

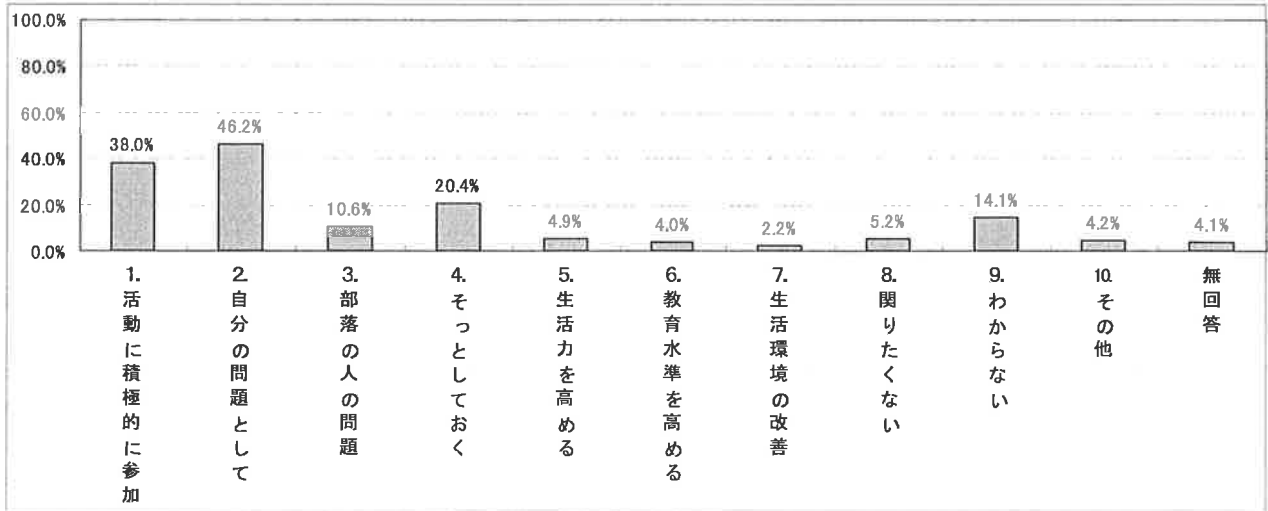
- 1 学校・社会教育を通じて、人権意識を育て、差別をなくす活動などに積極的に参加する。
- 2 部落問題を一人ひとりが自分の問題としてとらえて行動する。
- 3 被差別部落の人々自身が、差別されないようにする。
- 4 そっとしておけば自然になくなる。
- 5 被差別部落の人々に安定した仕事を保障し、生活力を高める。
- 6 被差別部落の人々の教育水準を高める。
- 7 被差別部落の住宅や生活環境を改善・整備する。
- 8 部落問題には関わりたくない。
- 9 わからない。
- 10 その他 ( )

この質問は、部落問題の解決に必要と考える具体的な取り組み内容を複数回答(2つ以内)で問うている。

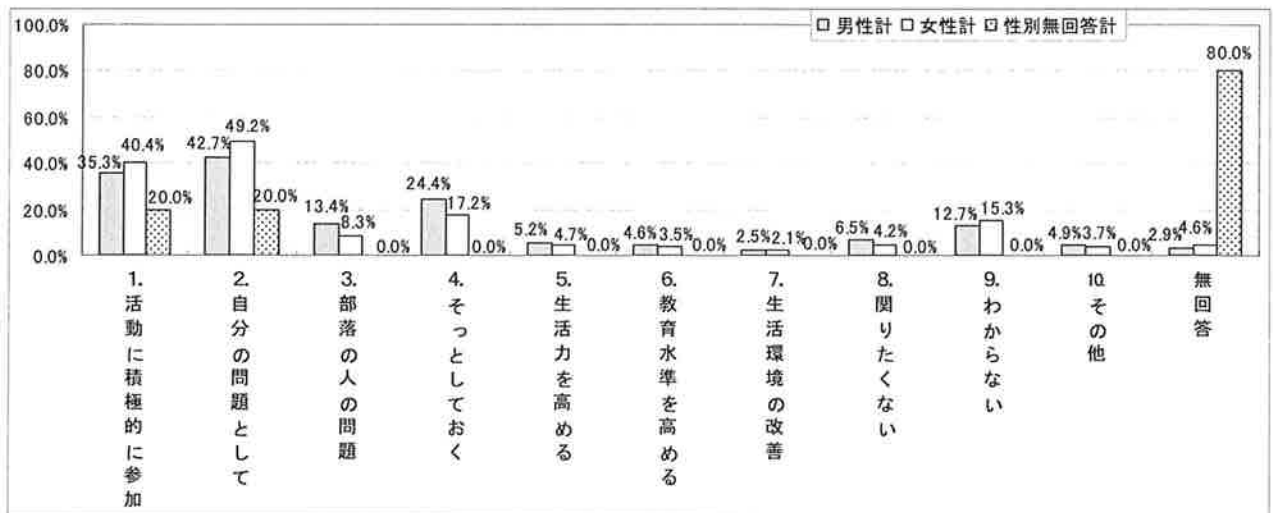
質問 18		1. 活動に積極的に参加		2. 自分の問題として		3. 部落の人の問題		4. そっとしておく		5. 生活力を高める		6. 教育水準を高める	
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
20才代	男	33	37.1%	29	32.6%	2	2.2%	19	21.3%	6	6.7%	2	2.2%
	女	42	39.3%	48	44.9%	3	2.8%	20	18.7%	1	0.9%	1	0.9%
	計	75	38.3%	77	39.3%	5	2.6%	39	19.9%	7	3.6%	3	1.5%
30才代	男	44	40.4%	47	43.1%	5	4.6%	16	14.7%	4	3.7%	4	3.7%
	女	61	47.3%	61	47.3%	5	3.9%	7	5.4%	5	3.9%	2	1.6%
	計	105	44.1%	108	45.4%	10	4.2%	23	9.7%	9	3.8%	6	2.5%
40才代	男	39	34.8%	52	46.4%	13	11.6%	26	23.2%	4	3.6%	6	5.4%
	女	77	53.5%	87	60.4%	6	4.2%	11	7.6%	8	5.6%	5	3.5%
	無回答	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	117	45.5%	140	54.5%	19	7.4%	37	14.4%	12	4.7%	11	4.3%
50才代	男	50	43.1%	59	50.9%	13	11.2%	24	20.7%	9	7.8%	7	6.0%
	女	63	43.2%	78	53.4%	6	4.1%	21	14.4%	7	4.8%	6	4.1%
	計	113	43.1%	137	52.3%	19	7.3%	45	17.2%	16	6.1%	13	5.0%
60才代	男	36	29.8%	56	46.3%	20	16.5%	34	28.1%	7	5.8%	5	4.1%
	女	50	34.7%	75	52.1%	25	17.4%	35	24.3%	10	6.9%	6	4.2%
	計	86	32.5%	131	49.4%	45	17.0%	69	26.0%	17	6.4%	11	4.2%
70才以上	男	28	26.9%	35	33.7%	34	32.7%	40	38.5%	4	3.8%	6	5.8%
	女	22	20.0%	35	31.8%	20	18.2%	40	36.4%	6	5.5%	7	6.4%
	計	50	23.4%	70	32.7%	54	25.2%	80	37.4%	10	4.7%	13	6.1%
年代性別無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	男性計	230	35.3%	278	42.7%	87	13.4%	159	24.4%	34	5.2%	30	4.6%
	女性計	315	40.4%	384	49.2%	65	8.3%	134	17.2%	37	4.7%	27	3.5%
	性別無回答計	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合計	546	38.0%	663	46.2%	152	10.6%	293	20.4%	71	4.9%	57	4.0%

7. 生活環境の改善		8. 関りたくない		9. わからない		10. その他		無回答		回答者数
回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
3	3.4%	2	2.2%	23	25.8%	5	5.6%	2	2.2%	89
4	3.7%	4	3.7%	18	16.8%	8	7.5%	2	1.9%	107
7	3.6%	6	3.1%	41	20.9%	13	6.6%	4	2.0%	196
4	3.7%	8	7.3%	12	11.0%	10	9.2%	3	2.8%	109
3	2.3%	1	0.8%	21	16.3%	7	5.4%	7	5.4%	129
7	2.9%	9	3.8%	33	13.9%	17	7.1%	10	4.2%	238
3	2.7%	8	7.1%	12	10.7%	6	5.4%	2	1.8%	112
4	2.8%	6	4.2%	17	11.8%	2	1.4%	2	1.4%	144
0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
7	2.7%	14	5.4%	29	11.3%	8	3.1%	4	1.6%	257
3	2.6%	7	6.0%	15	12.9%	1	0.9%	0	0.0%	116
4	2.7%	6	4.1%	22	15.1%	4	2.7%	9	6.2%	146
7	2.7%	13	5.0%	37	14.1%	5	1.9%	9	3.4%	262
1	0.8%	6	5.0%	12	9.9%	6	5.0%	8	6.6%	121
1	0.7%	7	4.9%	18	12.5%	4	2.8%	8	5.6%	144
2	0.8%	13	4.9%	30	11.3%	10	3.8%	16	6.0%	265
2	1.9%	11	10.6%	9	8.7%	4	3.8%	4	3.8%	104
0	0.0%	9	8.2%	23	20.9%	4	3.6%	8	7.3%	110
2	0.9%	20	9.3%	32	15.0%	8	3.7%	12	5.6%	214
0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%	4
16	2.5%	42	6.5%	83	12.7%	32	4.9%	19	2.9%	651
16	2.1%	33	4.2%	119	15.3%	29	3.7%	36	4.6%	780
0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	80.0%	5
32	2.2%	75	5.2%	202	14.1%	61	4.2%	59	4.1%	1,436

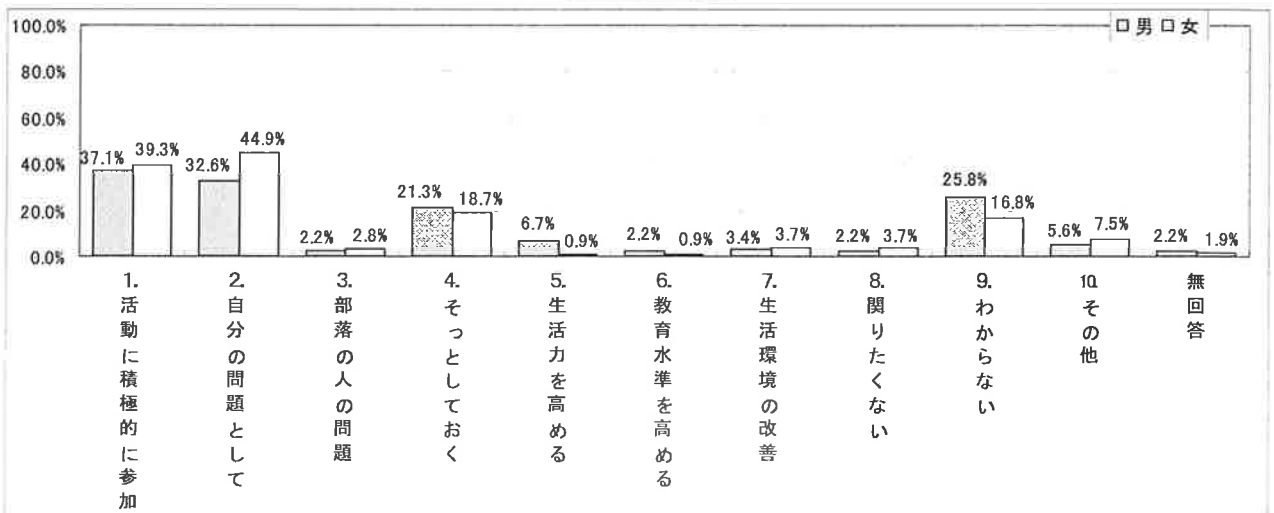
全体



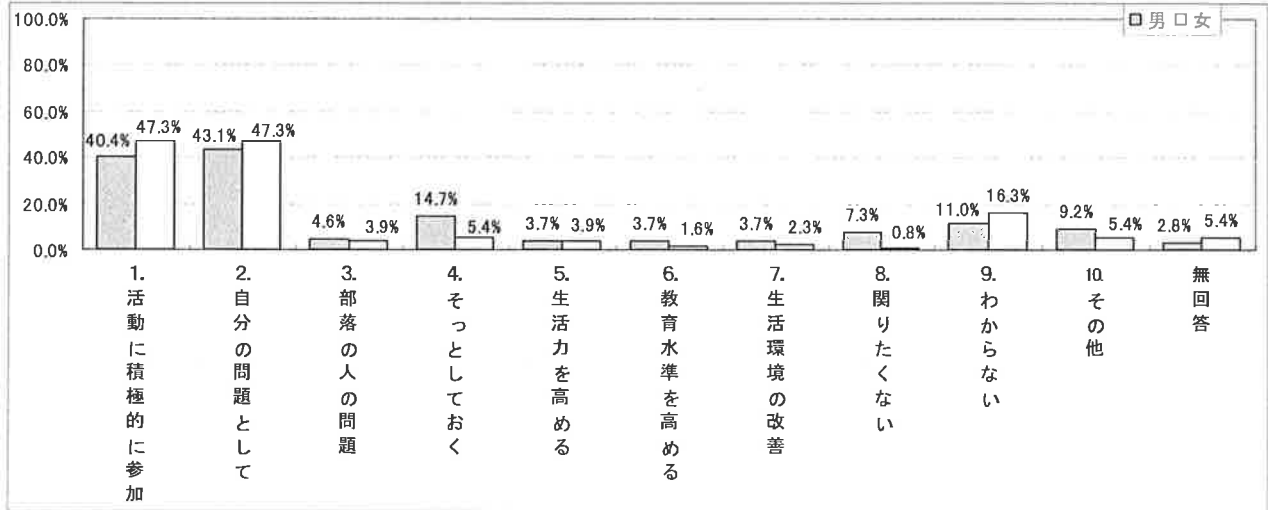
男女別全体



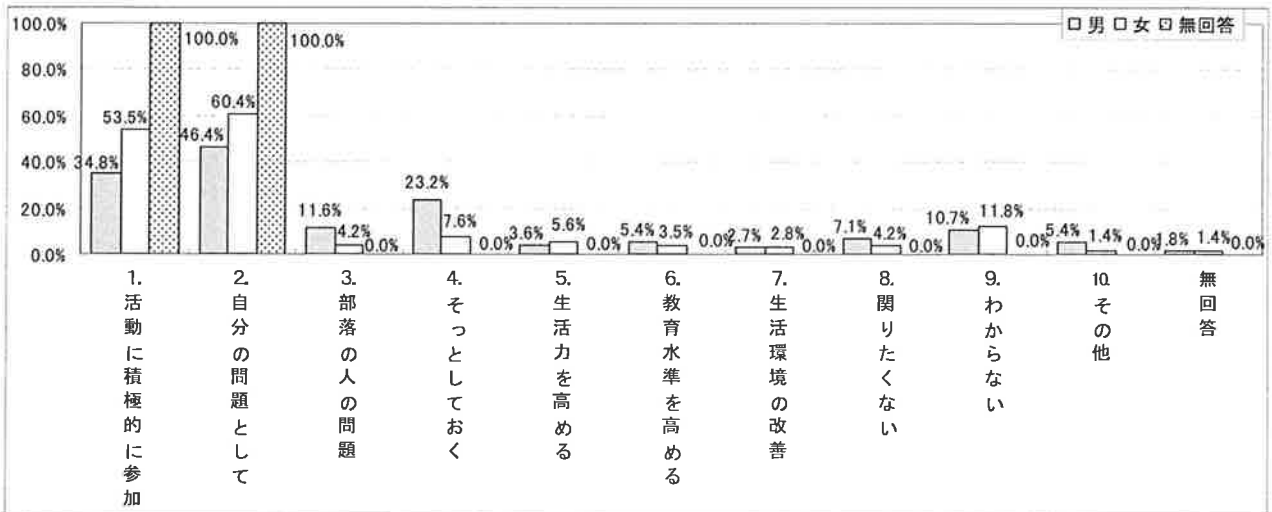
20才代



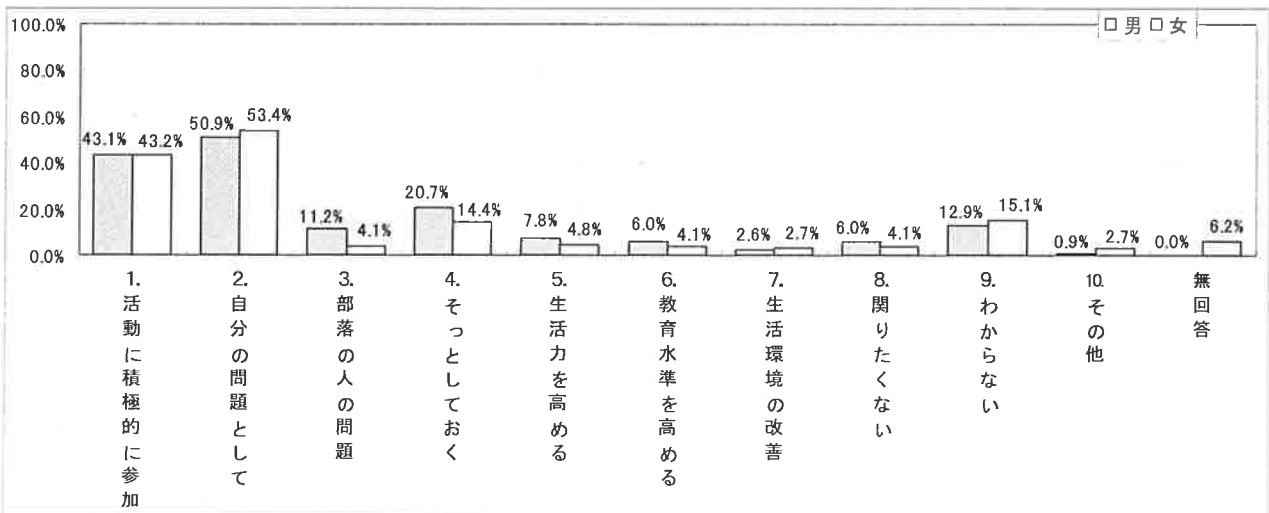
### 30才代



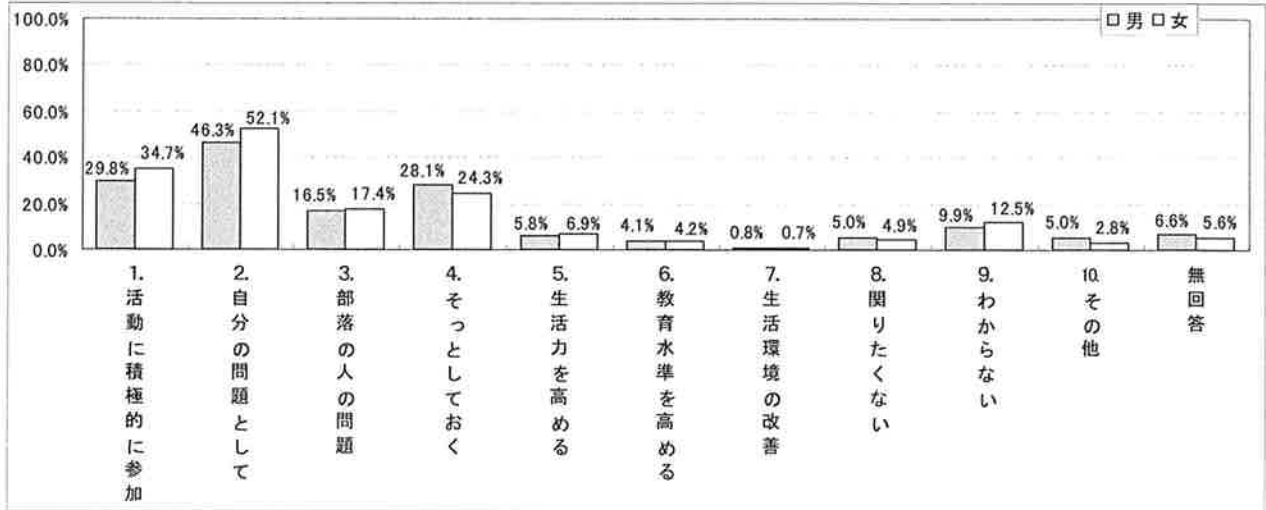
### 40才代



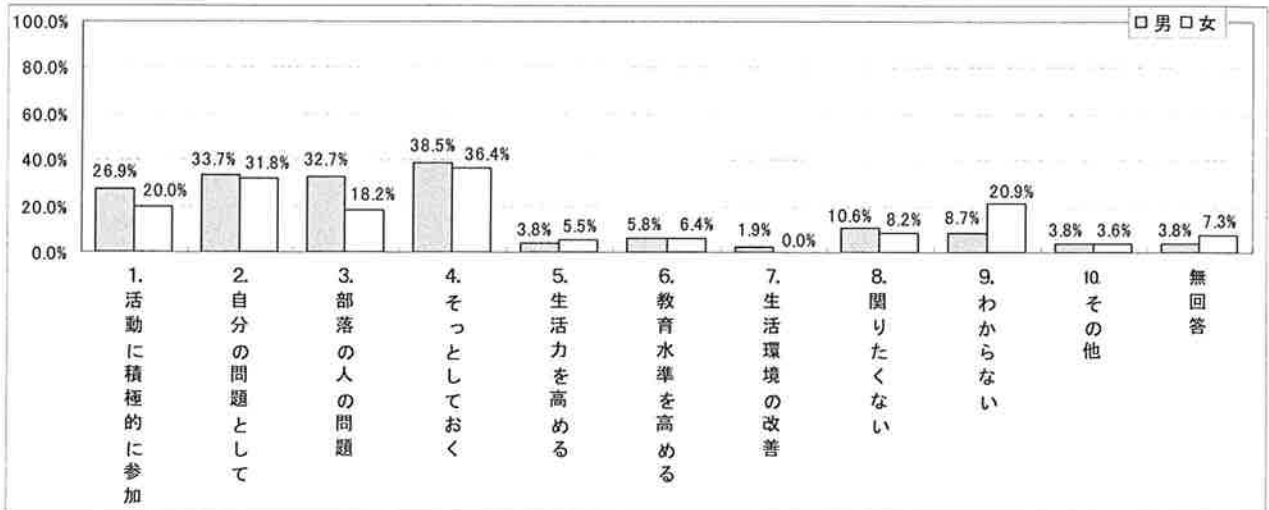
### 50才代



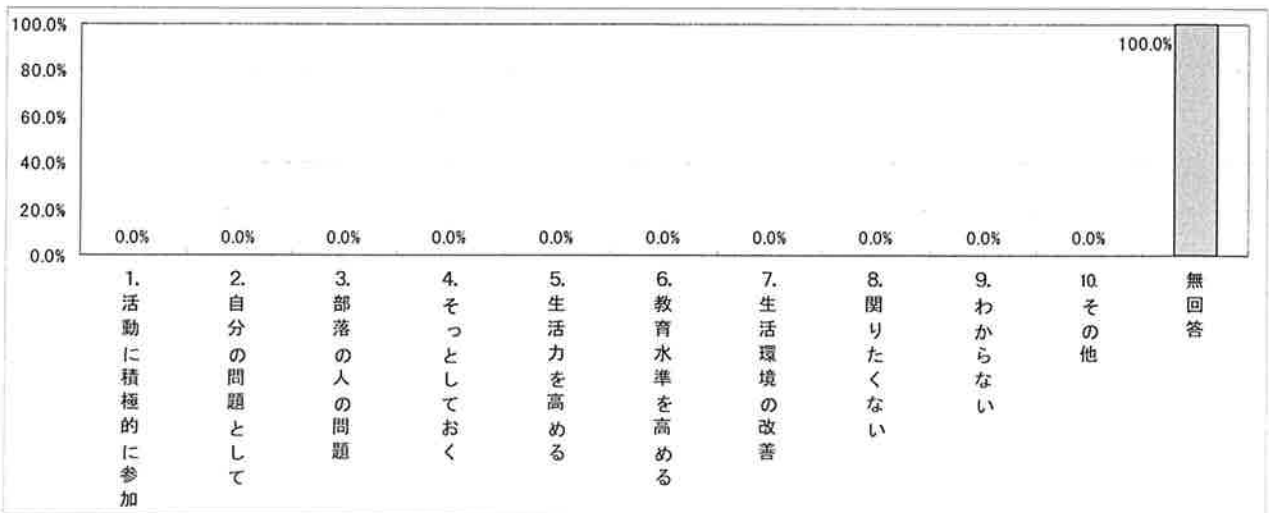
### 60才代



### 70才以上



### 年代性別無回答



### <分析>

- 全体では「自分の問題として」が46.2%で最も高く、「活動に積極的に参加」38.0%、「そっとしておく」20.4%、「わからない」14.1%、「被差別部落の人の問題」10.6%と続く。「自分の問題として」と「活動に積極的に参加」を合わせて84.2%（複数回答）であり、学びや行動への意欲は高い。
- 年代別でみると、どの年代も「自分の問題として」の割合が高い。特に、40才代は54.5%、50才代は52.3%と高率である。また、20才代～60才代は「活動に積極的に参加」の割合も高い。特に、30才代は44.1%、40才代は45.5%、50才代は43.1%と高い。一方、70才以上は、「そっとしておく」が37.4%で最も高く、「被差別部落の人の問題」も25.2%と高く、どちらも年代中最も高い。
- 男女別でみると、「活動に積極的に参加」、「自分の問題として」は、女性の方が5～6.5ポイント程度高く、「被差別部落の人の問題」、「そっとしておく」は、男性の方が5～7ポイント程度高い。
- 年代男女別では、40才代で大きな差がみられる。「活動に積極的に参加」は、男性の34.8%に対し、女性は53.5%と18.7ポイント高い。また、「自分の問題として」は、男性の46.4%に対し、女性は60.4%と14.0ポイント高い。どちらの回答についても40才代女性の回答割合は年代男女中最も高い。  
一方、「そっとしておく」は、男性の23.2%に対し、女性は7.6%と15.6ポイント低く、30才代女性の5.4%に次いで年代男女中2番目に低い。

【質問18（部落問題の解決方法）と、質問6-1（研修会等への参加回数）との関連】

[質問6-1の内容]

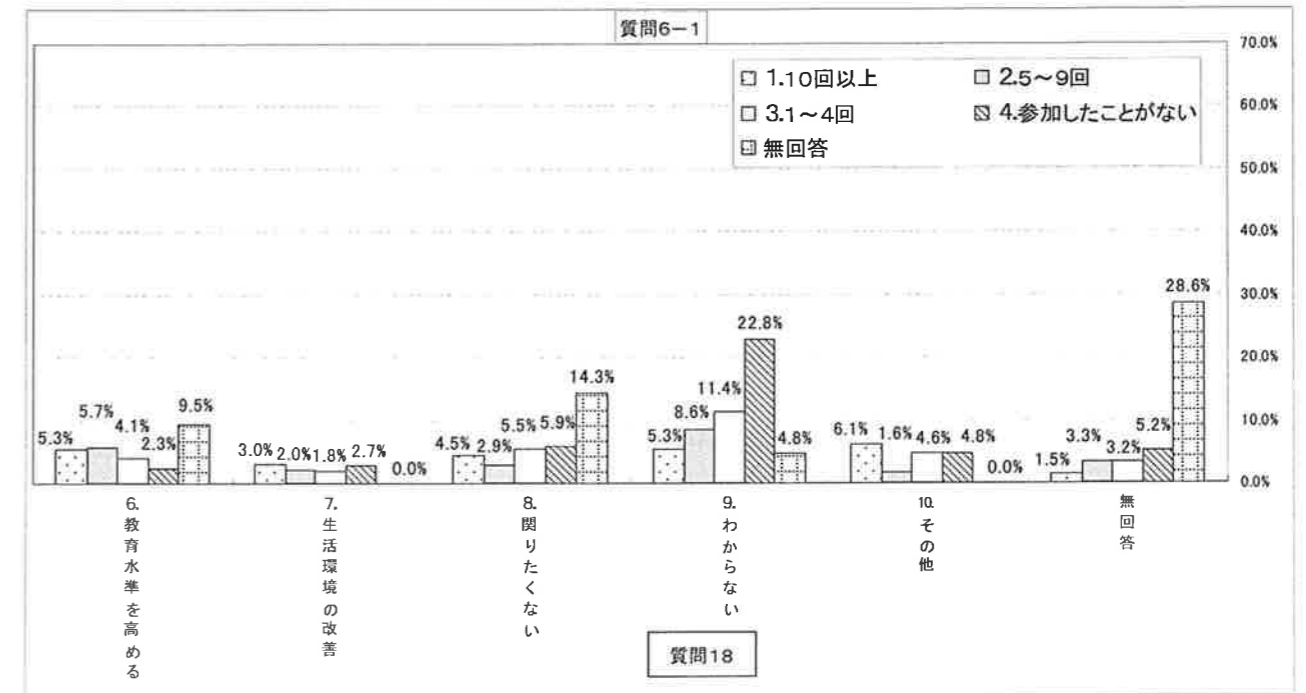
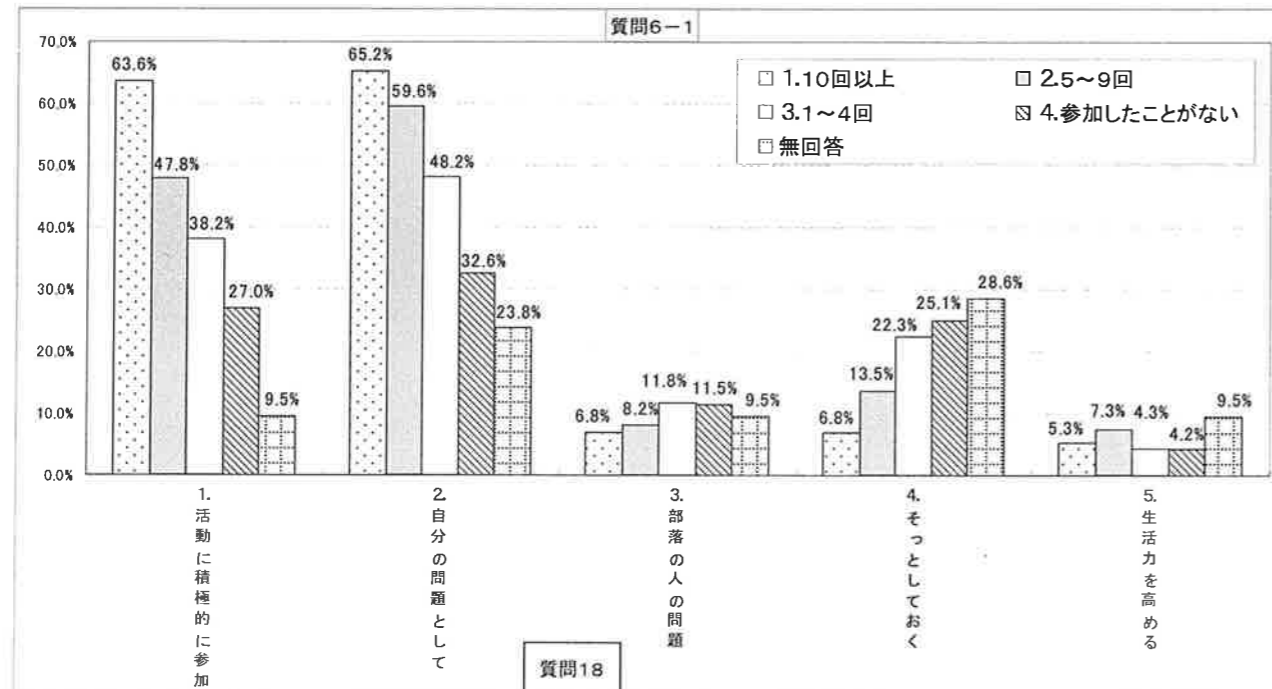
あなたは過去5年間に、人権・同和教育の講演会や研修会に参加されたことがありますか。

- 1. 10回以上参加した。
- 2. 5～9回参加した。
- 3. 1～4回参加した。
- 4. 参加したことがない。

このクロス集計では、部落問題の解決方法に対する考え方について、研修会等への参加回数の違いによる意識や考え方の変容をみた。

質問6-1	1 活動に積極的に参加		2 自分の問題として		3 部落の人の問題		4 そっとしておく		5 生活力を高める	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 10回以上	84	63.6%	86	65.2%	9	6.8%	9	6.8%	7	5.3%
2. 5～9回	117	47.8%	146	59.6%	20	8.2%	33	13.5%	18	7.3%
3. 1～4回	214	38.2%	270	48.2%	66	11.8%	125	22.3%	24	4.3%
4. 参加したことがない	129	27.0%	156	32.6%	55	11.5%	120	25.1%	20	4.2%
無回答	2	9.5%	5	23.8%	2	9.5%	6	28.6%	2	9.5%

6 教育水準を高める		7 生活環境の改善		8 関りたくはない		9 わからない		10 その他		無回答		回答者数
回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
7	5.3%	4	3.0%	6	4.5%	7	5.3%	8	6.1%	2	1.5%	132
14	5.7%	5	2.0%	7	2.9%	21	8.6%	4	1.6%	8	3.3%	245
23	4.1%	10	1.8%	31	5.5%	64	11.4%	26	4.6%	18	3.2%	560
11	2.3%	13	2.7%	28	5.9%	109	22.8%	23	4.8%	25	5.2%	478
2	9.5%	0	0.0%	3	14.3%	1	4.8%	0	0.0%	6	28.6%	21
											1,436	



### <分析>

○ 研修会等への参加回数の増加にともない「活動に積極的に参加」、「自分の問題として」とする積極的態様の回答の割合が高くなっている。これは「参加したことがない」人と比べ、「10回以上」では、「活動に積極的に参加」が63.6%、「自分の問題として」は65.2%と、いずれも2倍以上の大幅な増加を示している。

一方、「そっとしておく」という自然解消論、「被差別部落の人の問題」とする部落責任論の回答は、研修会等への参加回数の増加とともにその割合が減少している。ことに、自然解消論は「参加したことがない」人は25.1%であるが、「10回以上」では6.8%と18.3ポイント低くなっている。他の部落問題の解決方法の回答項目には相関は認められず、また回答の割合も少ない。

この事実からは、学習に参加し、共に学びあう機会の大切さを確認することができる。

【質問18（部落問題の解決方法）と、質問12（部落差別の存在の認識）との関連】

[質問12の内容]

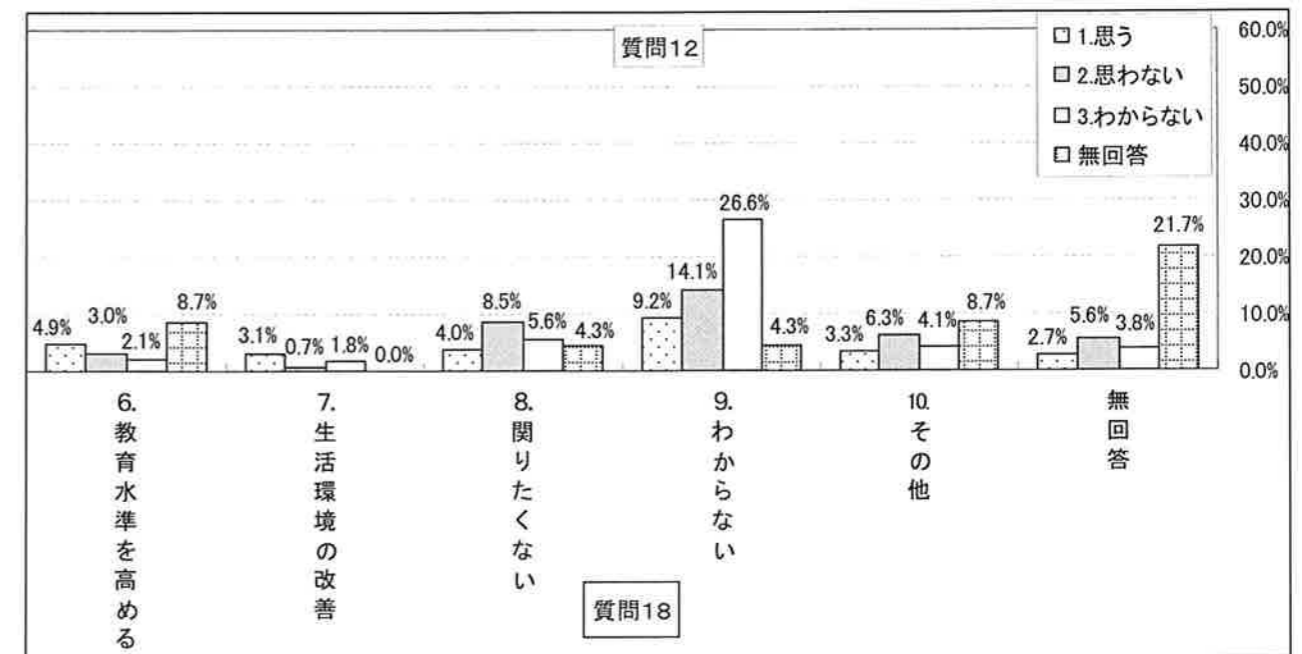
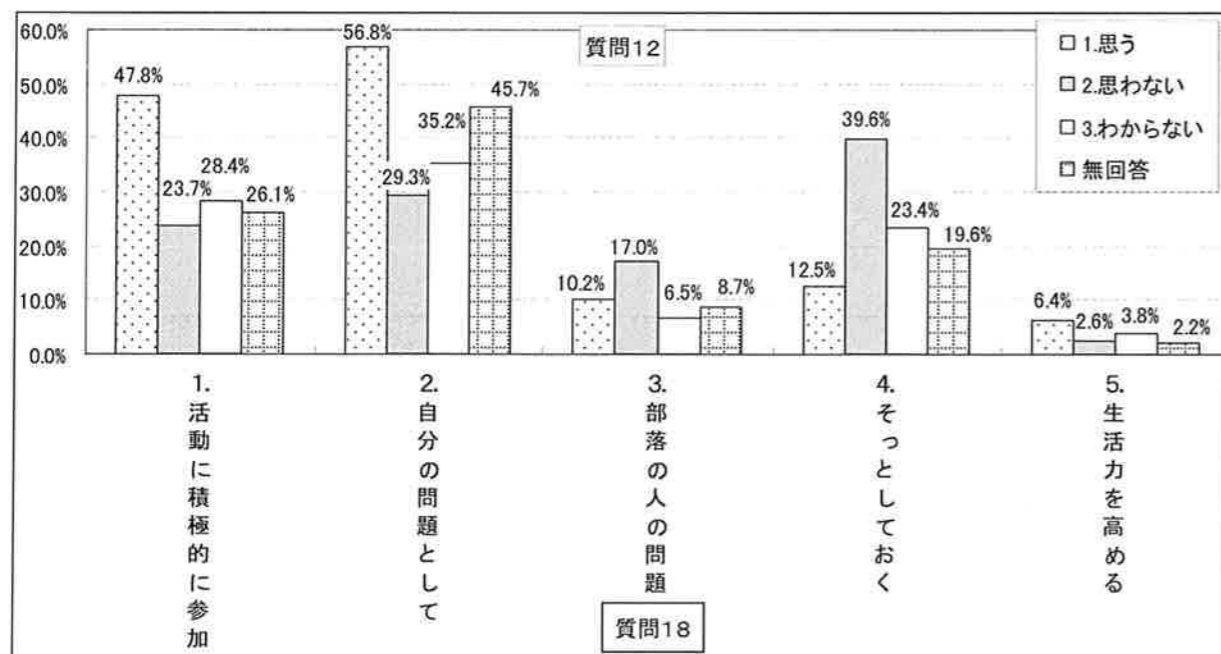
部落差別が今でもあると思いますか。

1. 思う。
2. 思わない。
3. わからない。

このクロス集計では、部落問題の解決方法に対する考え方について、部落差別の存在認識の違いによる意識や考え方の傾向をみた。

質問12 \ 質問18	1 活動に積極的に参加		2 自分の問題として		3 部落の人の問題		4 そっとしておく		5 生活力を高める	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 思う	374	47.8%	444	56.8%	80	10.2%	98	12.5%	50	6.4%
2. 思わない	64	23.7%	79	29.3%	46	17.0%	107	39.6%	7	2.6%
3. わからない	96	28.4%	119	35.2%	22	6.5%	79	23.4%	13	3.8%
無回答	12	26.1%	21	45.7%	4	8.7%	9	19.6%	1	2.2%

質問12 \ 質問18	6 教育水準を高める		7 生活環境の改善		8 関りたくない		9 わからない		10 その他		無回答		回答者数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
1. 思う	38	4.9%	24	3.1%	31	4.0%	72	9.2%	26	3.3%	21	2.7%	782
2. 思わない	8	3.0%	2	0.7%	23	8.5%	38	14.1%	17	6.3%	15	5.6%	270
3. わからない	7	2.1%	6	1.8%	19	5.6%	90	26.6%	14	4.1%	13	3.8%	338
無回答	4	8.7%	0	0.0%	2	4.3%	2	4.3%	4	8.7%	10	21.7%	46
												1,436	



<分析>

○ 部落差別が今でもあると「思う」人は、積極的な態度である「自分の問題として」が56.8%で、「思わない」人の29.3%より27.5ポイント高い。また、「活動に積極的に参加」も47.8%で、「思わない」人の23.7%より24.1ポイント高い。

一方、部落差別が今でもあると「思わない」人は、「そっとしておく」という自然解消論が39.6%と最も高く、「思う」人の12.5%より約27ポイント高い。また、「被差別部落の人の問題」とする部落責任論は17.0%である。

部落差別の存在を認識している人は、部落問題の解決を自己の課題として行動するという積極的な意識、態度を示しているが、部落差別の存在を否定している人は「そっとしておけば自然になくなる」とする自然解消論や部落責任論の考え方を保持している。



【質問18（部落問題の解決方法）と、質問14（差別行為への対応）との関連】

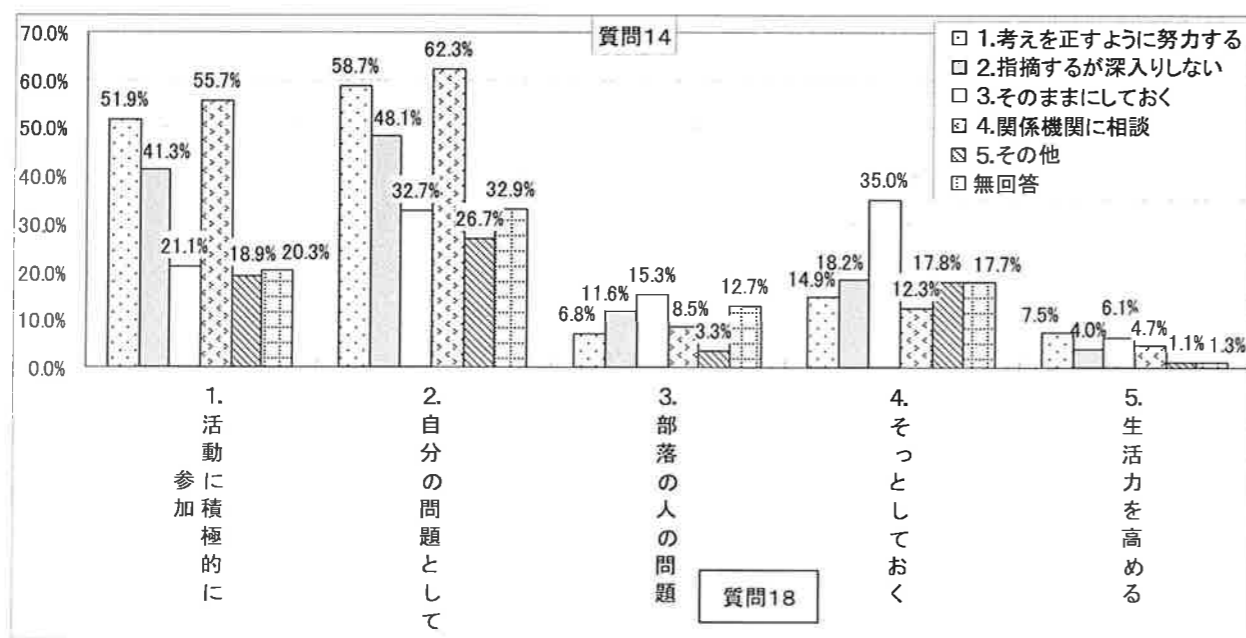
[質問14の内容]

あなたの周りや親しい人の中で、差別的な発言や行為を見たり、聞いたりした場合どうされますか。あてはまるものを選んでください。

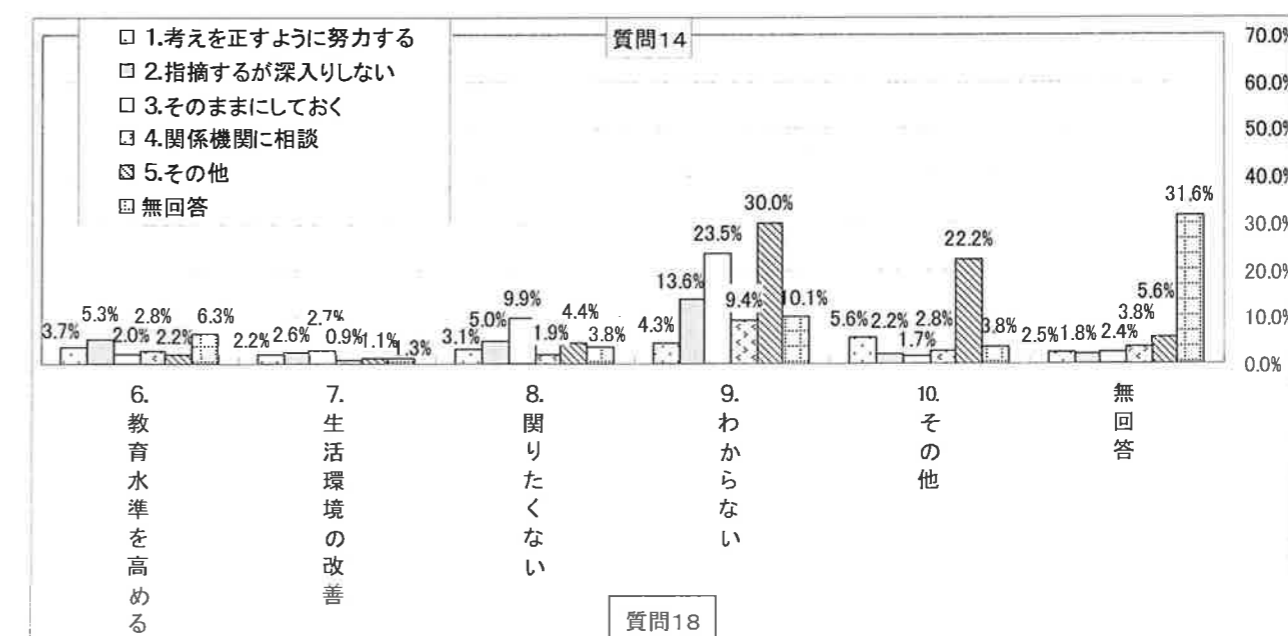
- 1 その人の考え（間違い）を正すように努力する。
- 2 一応間違いを指摘するが、あまり深入りしないようにする。
- 3 気まづくならないよう、そのままにしておく。
- 4 身近な人や関係機関に相談する。
- 5 その他

このクロス集計では、部落問題の解決方法に対する考え方について、差別行為への対処方法の違いによる意識や考え方の傾向をみた。

質問14	1 活動に積極的に参加		2 自分の問題として		3 部落の人の問題		4 そっとしておく		5 生活力を高める	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 考えを正すように努力する	167	51.9%	189	58.7%	22	6.8%	48	14.9%	24	7.5%
2. 指摘するが深入りしない	225	41.3%	262	48.1%	63	11.6%	99	18.2%	22	4.0%
3. そのままにしておく	62	21.1%	96	32.7%	45	15.3%	103	35.0%	18	6.1%
4. 関係機関に相談	59	55.7%	66	62.3%	9	8.5%	13	12.3%	5	4.7%
5. その他	17	18.9%	24	26.7%	3	3.3%	16	17.8%	1	1.1%
無回答	16	20.3%	26	32.9%	10	12.7%	14	17.7%	1	1.3%



質問18	6 教育水準を高める		7 生活環境の改善		8 関りたくない		9 わからない		10 その他		無回答		回答者数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
1. 考えを正すように努力する	12	3.7%	7	2.2%	10	3.1%	14	4.3%	18	5.6%	8	2.5%	322
2. 指摘するが深入りしない	29	5.3%	14	2.6%	27	5.0%	74	13.6%	12	2.2%	10	1.8%	545
3. そのままにしておく	6	2.0%	8	2.7%	29	9.9%	69	23.5%	5	1.7%	7	2.4%	294
4. 関係機関に相談	3	2.8%	1	0.9%	2	1.9%	10	9.4%	3	2.8%	4	3.8%	106
5. その他	2	2.2%	1	1.1%	4	4.4%	27	30.0%	20	22.2%	5	5.6%	90
無回答	5	6.3%	1	1.3%	3	3.8%	8	10.1%	3	3.8%	25	31.6%	79
												1,436	



### <分析>

- 部落問題の解決方法として「自分の問題として」と答えたのは、差別行為への対応として「身近な人や関係機関に相談する」人では 62.3%、「考えを正すように努力する」人では 58.7%、「間違いを指摘するが深入りしない」人では 48.1%である。これは、「そのままにしておく」人の 32.7%に比べ、約 15～30 ポイント高い。

また、部落問題の解決方法として「活動に積極的に参加」と答えたのは、差別行為への対応として「身近な人や関係機関に相談する」人では 55.7%、「考えを正すように努力する」人では 51.9%、「間違いを指摘するが深入りしない」人では 41.3%である。これは、「そのままにしておく」人の 21.1%に比べ、約 20～35 ポイント高い。差別行為に遭遇したときに何らかの対応行動をする人は、部落問題の解決を自己の課題として行動しようとしている。

一方、部落問題の解決方法として「そっとしておく」と答えたのは、差別行為への対応として「そのままにしておく」人では 35.0%で、積極的な対応行動をとる人に比べ 17～23 ポイント高い。ただ、「自分の問題として」とする回答も 32.7% あり、これは差別行為の具体的な場面での行動は、「自分の問題としてとらえて行動する」ことであるという認識が曖昧であることの表れであろう。

【質問18（部落問題の解決方法）と、質問17（同和対策事業の必要性）との関連】

[質問17の内容]

被差別部落を中心に周辺地域を含めた生活環境の改善や生活の向上、差別をなくするための教育啓発活動を行っている国や県、町の同和対策事業についてどう思いますか。あなたの考えに近いものを選んでください。(1つ)

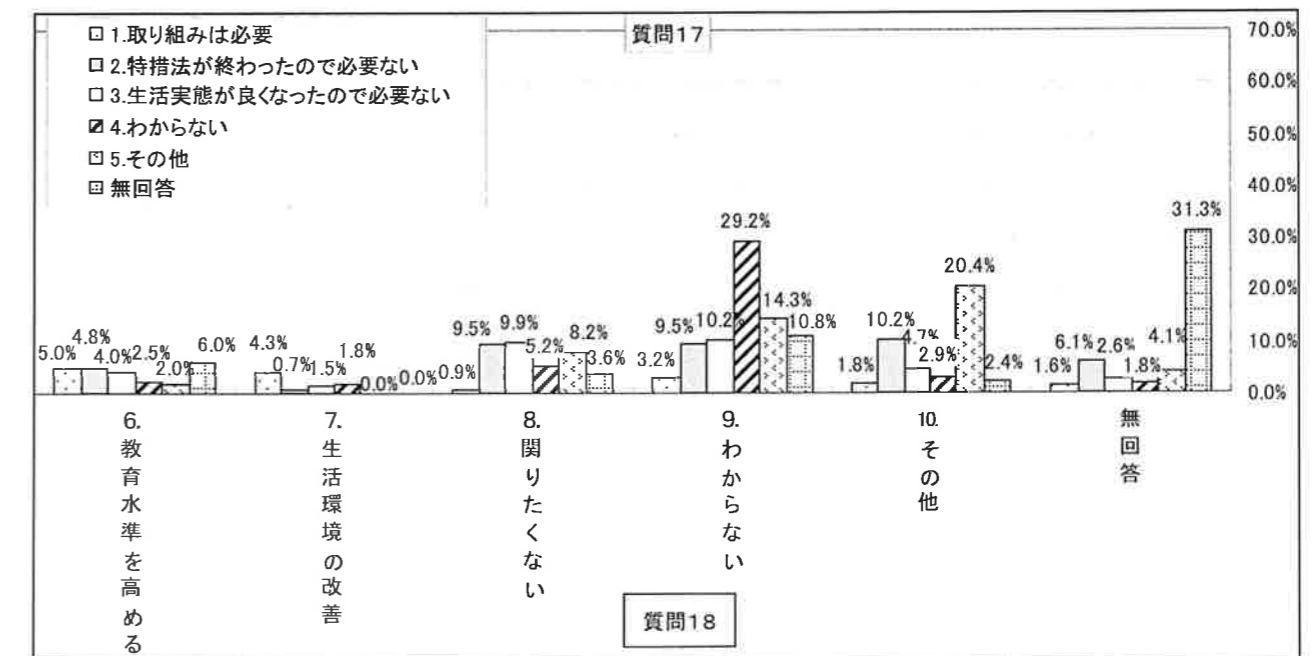
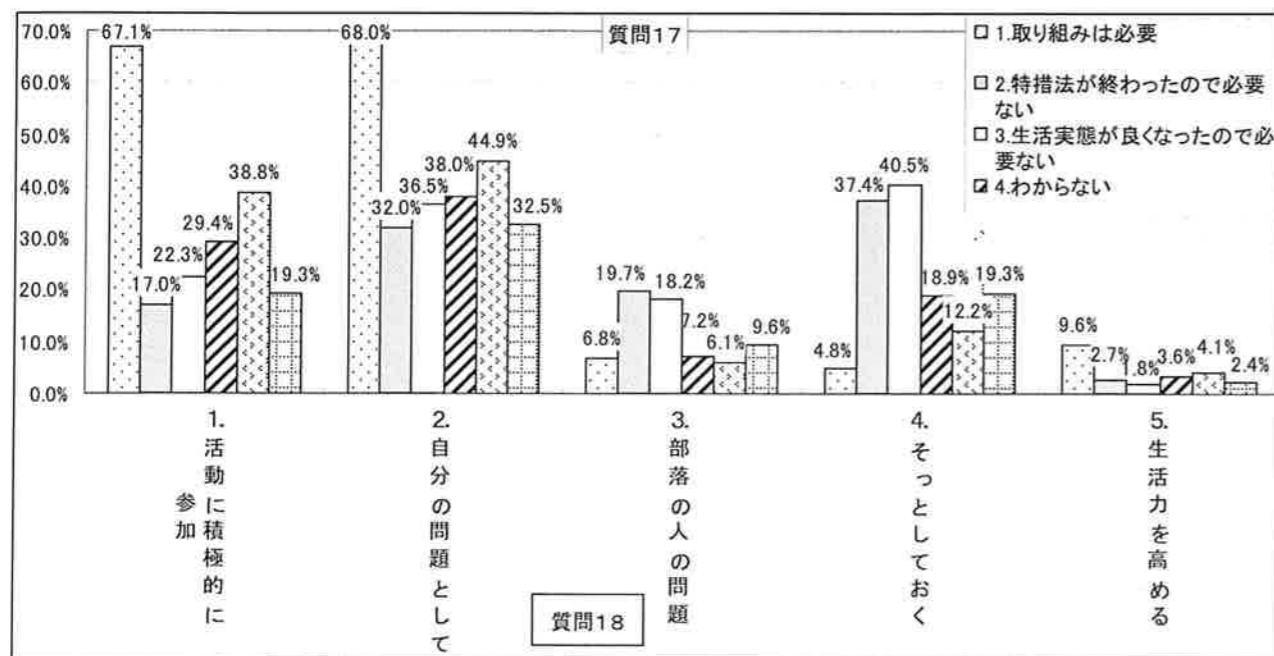
1. 一定の成果はあったが、差別はなくなっていないので、取り組みは必要だと思う。
2. 特別措置法が終わったのだから、同和対策事業は必要ない。
3. 被差別部落の環境や生活実態がよくなったので、続ける必要はない。
4. 事業が必要かどうかわからない。
5. その他

このクロス集計では、部落問題の解決方法に対する考え方について、同和対策事業の必要性についての認識の違いによる意識や考え方の傾向をみた。

質問17	1 活動に積極的に参加		2 自分の問題として		3 部落の人の問題		4 そっとしておく		5 生活力を高める	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. 取り組みは必要	294	67.1%	298	68.0%	30	6.8%	21	4.8%	42	9.6%
2. 特措法が終わったので必要ない	25	17.0%	47	32.0%	29	19.7%	55	37.4%	4	2.7%
3. 生活実態が良くなったので必要ない	61	22.3%	100	36.5%	50	18.2%	111	40.5%	5	1.8%
4. わからない	131	29.4%	169	38.0%	32	7.2%	84	18.9%	16	3.6%
5. その他	19	38.8%	22	44.9%	3	6.1%	6	12.2%	2	4.1%
無回答	16	19.3%	27	32.5%	8	9.6%	16	19.3%	2	2.4%

質問18	6 教育水準を高める		7 生活環境の改善		8 関りたくない		9 わからない		10 その他		無回答		回答者数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
1. 取り組みは必要	22	5.0%	19	4.3%	4	0.9%	14	3.2%	8	1.8%	7	1.6%	438
2. 特措法が終わったので必要ない	7	4.8%	1	0.7%	14	9.5%	14	9.5%	15	10.2%	9	6.1%	147
3. 生活実態が良くなったので必要ない	11	4.0%	4	1.5%	27	9.9%	28	10.2%	13	4.7%	7	2.6%	274
4. わからない	11	2.5%	8	1.8%	23	5.2%	130	29.2%	13	2.9%	8	1.8%	445
5. その他	1	2.0%	0	0.0%	4	8.2%	7	14.3%	10	20.4%	2	4.1%	49
無回答	5	6.0%	0	0.0%	3	3.6%	9	10.8%	2	2.4%	26	31.3%	83

1,436



## <分析>

- 部落問題の解決方法として「自分の問題として」と答えたのは、同和対策事業について「取り組みは必要」とする人では68.0%で、これは、「特別措置法が終わったのだから必要ない」とする人の32.0%に比べ46.0ポイント、「生活実態がよくなったので必要ない」とする人の36.5%と比べ31.5ポイント高い。

また、部落問題の解決方法として「活動に積極的に参加」とする回答でも、「取り組みは必要」とする人では67.1%で、これは、「特別措置法が終わったのだから必要ない」とする人の17.0%に比べ50.1ポイント、「生活実態がよくなったので必要ない」とする人の22.3%と比べ44.8ポイント高い。

一方、部落問題の解決方法として「そっとしておく」と答えたのは、「特別措置法が終わったのだから必要ない」とする人では37.4%、「生活実態がよくなったので必要ない」とする人では40.5%で、「取り組みは必要」とする人の4.8%と比べ約33~36ポイント高い。同和対策事業の必要性を認識している人は、部落問題の解決に対する意識や考え方が主体的、積極的傾向が強く、同和対策事業に否定的な人は自然解消論の考え方が極めて強い。

## 【考察】

- ◎ 部落問題の解決に必要な取り組みは、「人権意識を育て、差別をなくす活動に積極的に参加する」こと、「自分の問題として行動する」ことが大切だと答えた人は、全体で84.2%（複数回答）と高く、これまでの取り組みの成果として評価できる。

しかし、回答選択肢を2つ以内としたことを考慮しなければならないが、被差別部落の生活環境の改善、教育水準の向上、就労保障などの取り組みが大切だと答えた人は、合わせて11.1%（複数回答）と低い。

そして、「そっとしておく」、「被差別部落の人の問題」、「関わりたくない」、「わからない」とする自然解消論や部落責任論、部落問題に関わりたくないとする意識に基づく回答は、合わせて50.3%（複数回答）である。

また、部落差別の存在認識との相関から、部落差別の存在を否定し他人事と考えている人は、自然解消論は27.1ポイント、部落責任論は6.8ポイント、「関わりたくない」は4.5ポイント、「わからない」は4.9ポイント、それぞれ部落差別の存在を認識している人より高い。したがって、これらの意識や態度の変容を促す教育・啓発は部落問題の解決にとって重要な課題である。

そのためには、身近な生活の中にあるさまざまな問題に対し、「そっとしておく」といった無関心を装い他人事にしないように、お互いに「相手の身になって、もし立場が逆だったら」という思いを大切にしながら、お互いの人権感覚を磨き人権意識を高め合う学びや取り組みが大切である。

学習や活動に積極的に参加する姿勢や自らの問題としての自覚、差別行為への対処行動など、学習や研修への参加に比例して、認識の深まりや行動化できることが確かめられている。さまざまな問題の本質的な解決に向け、共に学び合う機会や取り組み内容を充実することが大切である。